



学思

JSPS Beijing

78

2024年4月～6月

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』

目次

- センター長のコラム..... 2
- 活動報告..... 3
 - ・ 首都師範大学における JSPS 事業説明会を開催
- 活動記録 (2024年4月～6月)..... 3
- 帰任の挨拶..... 4
 - 副センター長 金子めぐみ

折り返し点を過ぎて思う

2022年4月にJSPS北京研究連絡センターのセンター長に就任してから2年が経ちました。あっという間の2年だったかと思えば、まだ2年した経っていないのかと思ったりもしており、これまでの中国で過ごした日々を振り返ると様々な思いが胸を去来してきます。

実際に北京に赴任したのは2022年8月15日でしたが、この年は日中国交正常化50周年という節目の年にあたり、日中共同声明が発表されて国交が結ばれた9月29日に向けて様々な記念行事が計画されていました。しかし、「険しい国際情勢もあって祝賀ムードは限定的」というのが当時の日本での報道ぶりでした。

日本の垂大使も、釣魚台国賓館で開催された「日中国交正常化50周年記念レセプション」における挨拶の中で「昨今、日中関係は負のスパイラルに陥りがちであります。国民間の交流が一面的となったり、制限されたりして、相互理解が十分に進まず、ましてや相互信頼は全く醸成されていません。この点では、国交正常化以降、最も厳しい状況にあるとも言えましょう。」と率直に述べています。当センターでも協賛イベントを企画していましたが、中には実施できないまま終わったものもありました。

ところで、記念日には日中の政府間で、「50年前に両国の国交正常化を成し遂げた原点を思い直すべき時である」といった趣旨のメッセージも交換されておりますが、その原点となる共同声明では次のようにうたわれています：

「日中両国間には社会制度の相違があるにもかかわらず、両国は、平和友好関係を樹立すべきであり、また、樹立することが可能である。両国間の国交を正常化し、相互に善隣友好関係を発展させることは、両国国民の利益に合致するところであり、また、アジアにおける緊張緩和と世界の平和に貢献するものである。」

日本と中国とでは、社会制度だけでなく慣習や生活様式、社会規範、価値観にまで違いがあります。しかし、「国情」が違っていたとしても、日中間の学術交流は、両国の研究者の相互理解と信頼関係に支えられて今日まで脈々と続いてきました。新型コロナ感染症によりもたらされた停滞から脱し、ポスト・コロナ時代を迎えつつある今日、「次の50年」に向けての日中関係の発展が期待されるところです。現実には依然として両国をとりまく環境には険しいものがありますが、このような中であって日中間の学術交流は、半世紀前の共同声明にうたわれた平和友好関係を具現化するための重要な絆となっています。

この学術交流にJSPS北京研究連絡センターがどれがけ貢献できたか、この2年間を振り返ると、忸怩たる思いにとらわれます。私の任期がいつまでになるかは分かりませんが、折り返し点を過ぎたことだけは確かです。着任時の志を改めて思い起こし、残る任期を全うしていきたいと思う次第です。

センター長 山口英幸

首都師範大学におけるJSPS事業説明会を開催

2024年5月9日（木）、首都師範大学にてJSPSが実施する国際交流事業の説明会を実施しました。本説明会では、同大学の資源環境及び旅游学院の王鵬飛教授（JSPS中国同窓会会員）が司会を務め、約30名の研究者・学生が参加しました。また、事業説明会に先立ち、同大学資源環境及び旅游学院への表敬訪問を行いました。

表敬訪問では、資源環境及び旅游学院・常華党書記から歓迎の挨拶があり、続いて同学院・潘雲院長から学院の概要について説明を受けました。当センター・山口英幸センター長からはJSPSの概要や



右から4番目：常華党書記、中央：潘雲院長、左から5番目：山口英幸センター長



事業説明会参加者との集合写真

実施事業について紹介を行い、今後地理的にも近い距離にある当センターと首都師範大学との間で、学术交流における更なる協力関係を築いていくことについて確認しました。

その後に開催された事業説明会では、冒頭に当センター・山口センター長が挨拶を述べ、これまで築いてきた首都師範大学とJSPS及び日本の大学との間の深い関係を改めて振り返りました。現在、首都師範大学には6名のJSPS中国同窓会会員が所属しており、各分野で活躍しています。国際交流事業を紹介するセッ

ションでは、当センター・金子めぐみ副センター長が、外国人特別研究員、国際共同研究事業、二国間交流事業等の各種プログラムについて、説明を行いました。

また、王鵬飛教授が、プログラムの申請に関するアドバイスを行うとともに訪日時の研究活動の様子についても振り返りました。なお、王鵬飛教授は今年度JSPSの「BRIDGE Fellowship Program」により日本へ約1ヵ月間の滞在を予定しています。説明会終了後には、地質標本室や書道作品展示会の見学も行われました。

センターの活動記録

(2024年4月～6月)

4月

- 1日 杉浦南美国際協力員着任
- 9日 中央民族大学国際教育学院来訪
- 12日 在中国日本人研究者ネットワーク会員来訪
- 17日 中国日本商会会合出席
- 18日 九州大学中国同窓会訪問
- 20日 北京日本倶楽部春の交流会参加
- 25日 広報文化十一者会出席、中国日本商会会合出席

5月

- 9日 首都師範大学におけるJSPS事業説明会開催
- 16日 理化学研究所北京事務所、科学技術振興機構北京事務所訪問
- 18日 中央民族大学国際文化祭参加
- 20日 北京市科学技術研究院訪問
- 23日 中国日本商会会合出席
- 27日 広報文化十一者会出席
- 28日 JSPS中国同窓会員との懇親会
- 29日 国際協力員向け北京センター紹介

- 30日 中国労務管理セミナー参加
- 31日 敦煌研究院講演会参加

6月

- 1日 北京林業大学中日交流会参加
- 14日 JSPS中国同窓会員来訪
- 19日 清華大学・野村総研中国研究中心訪問
- 20日 広報文化十一者会出席、北京日本倶楽部文化講演会参加
- 27日 中国日本商会会合出席

帰任の挨拶

2024年7月に副センター長を離任することとなりました。昨年4月に任命され、7月に北京に降り立ってから約1年。これほど充実した日々はなかったのではないかと、濃密で刺激にあふれる毎日でした。

この1年、何よりも人との出会いに恵まれました。JSPS 中国同窓会会長の楊先生、副会長の劉先生・蘇先生をはじめとする同窓会会員の先生方、大使館や政府系機関・日中の大学などの関係者の皆さま、シンポジウム等のイベントでお目にかかった中国人研究者や骨の折れるビザ取得を経て中国まで訪問して下さった日本人研究者の先生方、すべての方々との出会いがとても貴重な私の財産となりました。

またつい先日、今年のJSPS 中国同窓会総会の開催予定場所である湖北省恩施に出張してまいりました。これまで中国以外にも様々な場所に訪れましたが、『地球の歩き方』にも載っていない知られざる地を訪れるのは初めてのことでした。いろいろな施設や農場等を見学し、その土地ならではの文化が根付いていることに驚き、風光明媚な景色に心奪われました。この秋の総会に参加できないことは大変残念ではありますが、今年も素晴らしい総会が開かれ、会員同士の交流が深まり、日中の学術交流がさらに実り多きものになることをお祈りしております。

最後になりましたが、山口センター長及びセンターの仲間たちをはじめ、支えて下さったすべての方々にご場を借りて心より感謝申し上げます。謝謝，再見！

副センター長 金子めぐみ



北京ダックめぐり

日本学術振興会 北京研究連絡センター

JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING REPRESENTATIVE OFFICE

北京市海淀区西三環北路 89 号 中国外文大厦 A 座 404 室
郵便番号: 100089

Tel: + 86-10-8882-4331

Fax: +86-10-8882-4332

E-mail: beijing@jsps.org.cn

URL: www.jsps.org.cn



WeChat